

10:10 そのとき、イスラエル人は主に叫んで言った。「私たちは、あなたに罪を犯しました。私たちの神を捨ててバアルに仕えたのです。」

10:11 すると、主はイスラエル人に仰せられた。「わたしは、かつてエジプト人、エモリ人、アモン人、ペリシテ人から、あなたがたを救ったではないか。

10:12 シドン人、アマレク人、マオン人が、あなたがたをしいたげたが、あなたがたがわたしに叫んだとき、わたしはあなたがたを彼らの手から救った。

10:13 しかし、あなたがたはわたしを捨てて、ほかの神々に仕えた。だから、わたしはこれ以上あなたがたを救わない。

10:14 行け。そして、あなたがたが選んだ神々に叫べ。あなたがたの苦難の時には、彼らを救うがよい。」

10:15 すると、イスラエル人は主に言った。「私たちは罪を犯しました。あなたがよいと思われることを何でも私たちにしてください。ただ、どうか、きょう、私たちを救い出してください。」

10:16 彼らが自分たちのうちから外国の神々を取り去って、主に仕えたので、主は、イスラエルの苦しみを見るに忍びなくなった。

10:17 このころ、アモン人が呼び集められ、ギルアデに陣を敷いた。一方、イスラエル人も集まって、ミツパに陣を敷いた。

10:18 ギルアデの民や、その首長たちは互いに言った。「アモン人と戦いを始めるものはだれか。その者がギルアデのすべての住民のかしらとなるのだ。」

苦境にあえいだイスラエルは、自分たちが神を忘れてほかのものを頼りとして仕えていたこと、それが問題であったことに気づき、神様に助けを求めました。しかし神様は彼らの悔い改めが本物であるかどうかを試すように、偶像に助けを求めるようにと突き放されます。そこで初めてイスラエルは偶像を処分したのです。

神様に助けを求めるのと、正しい道に方向転換する悔い改めとは違います。主は本当の悔い改めを求められるのです。

そこで主はイスラエルを助けることにされました。このように、悔い改めに遅いということはありません。しかも主は「見るに忍びなくなった」とあるように、その愛と憐れみの心を持って真心から助けてくださるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

